

キトラ古墳壁画の保存・活用について

1. これまでに確認された事項

(1) 壁画の保存・活用について

【壁画の保存方針】

- 恒久的な保存を図る観点から、環境を制御しながら安全に保存管理することができるよう、当面の間、石室外の適切な施設で保存管理しながら公開するものとする。

【壁画の保存施設】

- 保存管理の場所については、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区に設置する「体験学習館（仮称）」を念頭に、文化庁と国土交通省等の関係機関の連携を図りながら進めていく。
- 保存管理・公開施設に求められる設備・条件等については、「文化財公開施設の計画に関する指針（平成7年文化庁）」の考え方や意図、内容等を十分反映した上で、キトラ古墳壁画の諸事情に対応する。
- 壁画は、原則として石材単位で再構成し、保存管理を行う。
- 壁画の保存・展示・修理・メンテナンスの機能を一体とする。

【壁画の展示活用】

- 壁画の保存を最優先とした上で、可能な限り、展示活用を実現する。
- 壁画の展示活用を実現するに当たっては、「国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項（平成8年文化庁）」に準じながらも、キトラ古墳という文化財を体験的に理解できるような展示方法を検討する。

(2) 壁画の保存管理について

- 壁画は、原則として石材単位で再構成し、保存管理を行う。
- 壁画の保存管理については、関係機関と連携しつつ、文化庁が主体となって行う。
- 壁画の保存は「収蔵庫」において保存管理する。
＜収蔵庫＞
 - ・ 地下水や日射の影響を受けない位置に配置する。
 - ・ 床面積は、壁画の保存管理に適切なスペースを確保する。
 - ・ 庫外の影響を直接受けられないよう、前室の機能を果たすスペースを確保する。

- ・間仕切壁は二重壁とし、空気の流通が可能な空間を確保する。
- ・外壁と接する二重壁には結露対応のための点検口を室内側に位置する。
- ・内壁材には吸放湿性に優れた材質を使用する。
- ・収納棚は、空調の吹出・吸入口の位置に配慮し、庫内の出入口スペースを広くとる。
- ・収蔵庫内の電源は、漏電防止のため、収蔵庫外から切れるように設計する。

(3) 壁画の活用について

- 壁画の保存を最優先とした上で、可能な限り、展示活用を実現する。

2. 壁画の活用についての検討

壁画の活用については、収蔵庫をそのまま公開する場合、展示ケースを設けて展示室で公開する場合などの手法があるため、以下、それぞれのパターンについて検討する。いずれにせよ、壁画を免震台に積載して安定を図るとともに、公開に際しては、原則、平らとして展示するが、必要に応じて傾斜を設けて展示することができる。

【A案】収蔵庫を公開するパターン

- ・壁画を保存している収蔵庫を外部から覗く形態の公開とする。収蔵庫の周辺（覗くことができる部分）をガラス張りとする。公開の際には、収蔵庫内の壁画を公開スペースに近接し、覗くことができるようにする。

メリット○、デメリット●

- 壁画の安全を第一とし、移動や公開に係るリスクを最小限にとどめることができる。
- 収蔵庫を覗く部分をガラス張りとし、公開スペースに近接することで、一度に多くの壁画を公開することができる。
- 「展示ケース」における展示に比べ、壁画を間近に見ることができない。
- 壁画を多方向から見るができない。（1方向乃至は2方向のみ）

【B案】収蔵庫の一部を突き出して公開するパターン

- ・【案の1】の収蔵庫を公開するパターンに加え、収蔵庫の一部を突き出して多方面からの公開を可とする。

メリット○、デメリット●

- 壁画の安全を第一とし、移動や公開に係るリスクを最小限にとどめることができる。
- 公開スペースに収蔵庫の一部を突き出すことで、3方向から見ることができ、壁画を身近に感じることができる。
- 「展示ケース」における展示に比べ、壁画を間近に見ることができない。(壁画を真上から詳細に覗くことは困難。)

【C案】展示ケースを設けて公開するパターン

- ・「展示ケース」を設けて展示スペースで公開する。

メリット○、デメリット●

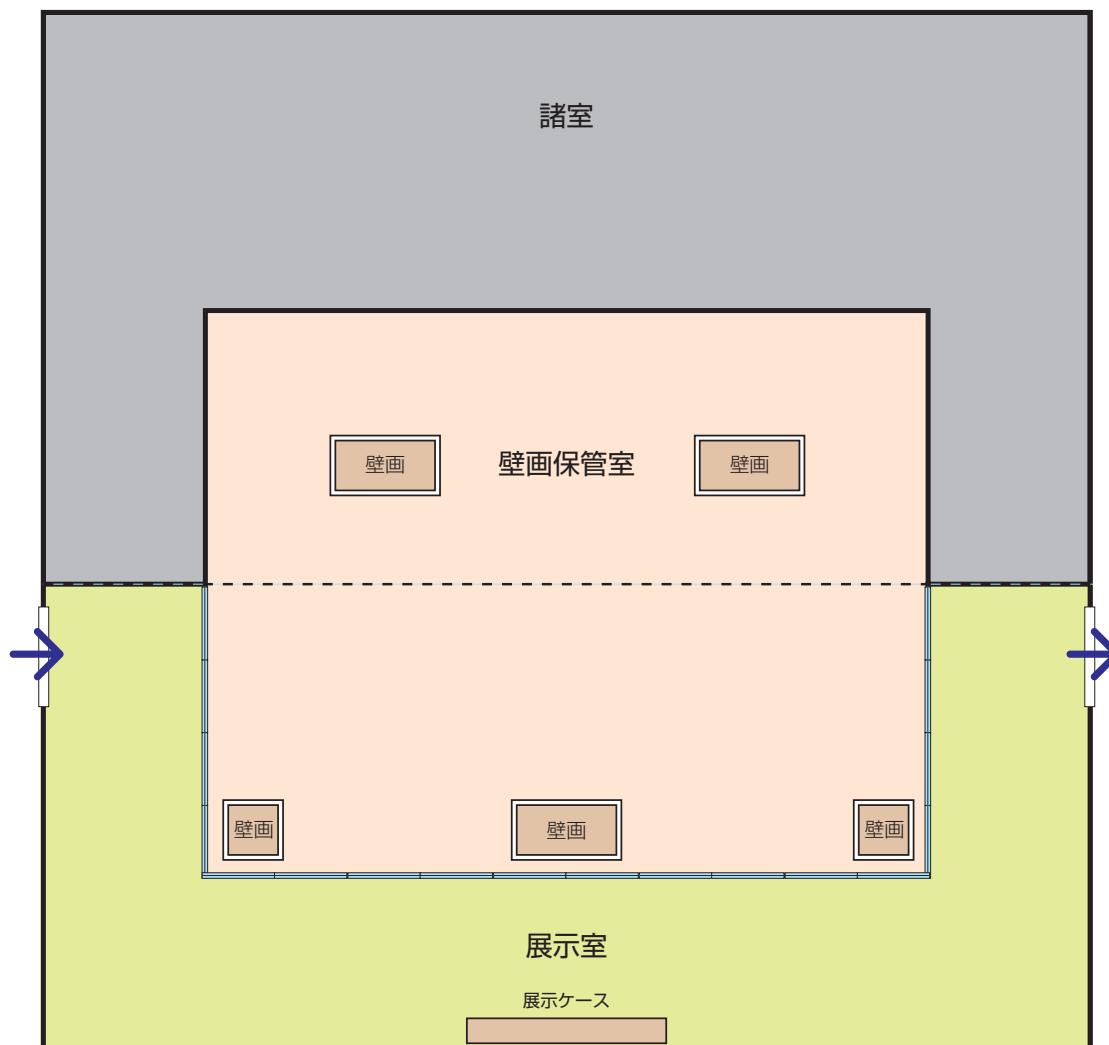
- 壁画を四方から見ることができ、壁画を身近に感じることができる。
- 収蔵庫から展示スペースへの移動に係るリスクを避けることができない。

3. 今後のスケジュール

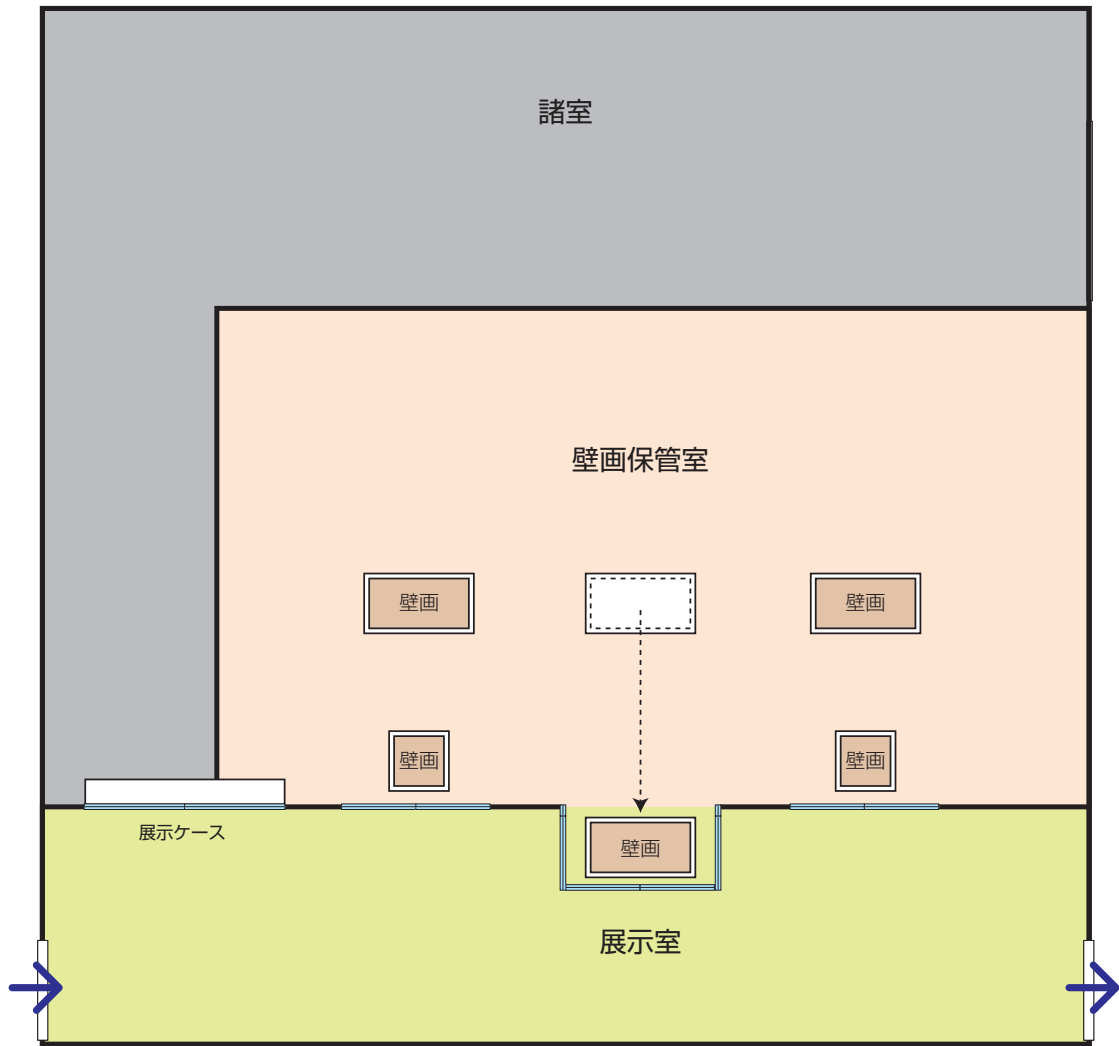
- キトラ古墳壁画の保存施設に係る今後の事業計画案は以下のとおり。
なお、国土交通省等の関係機関と連携しつつ、文化庁が主体となっていく。

平成23年度	基本構想・基本設計
24年度	実施設計
25～27年度	躯体・展示工事
28年度	供用開始

A



B



C

